

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H02623

研究課題名(和文) アジアにおける「知識外交」と高等教育の国際化に関する実証的研究

研究課題名(英文) Internationalization of Higher Education and the Promotion of "Knowledge Diplomacy" in Asia

研究代表者

北村 友人 (Kitamura, Yuto)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授

研究者番号：30362221

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 36,200,000円

研究成果の概要(和文)：アジアにおける高等教育の国際化を「知識外交」という概念を用いて分析した本研究では、次のような研究を実施した。(1)高等教育の国際化の進捗をモニタリング・評価するための指標作成を、国連教育科学文化機関(ユネスコ)と共に実施し、Policy Briefとして刊行した。(2)アジアにおける高等教育の国際化の状況を理解するために、2016年から2019年まで毎年、専門家会合をユネスコと共同で開催した。30名以上の専門家が集まり、国レベルならびに地域レベルでの状況について情報を共有し、意見交換を行った。(3)国別事例研究を行い、5カ国(インド、韓国、中国、タイ、マレーシア)に関する報告書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特色であり独創的な点は、アジア諸国が「知識外交」を展開するなかで大学が果たしている役割を、とくに国際化に焦点をあてつつ、実証的に明らかにしたことにある。これまで、高等教育の国際化が「知識外交」に及ぼす影響について検証した研究は国際的にも十分な蓄積があるとは言えず、本研究の成果はアジアのみならず世界各地の「知識外交」と高等教育の関係を考える際の貴重な参照枠組みとなることが期待できる。本研究で得られた知見を踏まえて今後の日本の「知識外交」に関する政策形成に対して、今後も積極的に提言を行っていくことが可能である。

研究成果の概要(英文)：In this study, which analyzed the internationalization of higher education in Asia using the concept of "knowledge diplomacy," the following research was conducted. (1) Together with the Directorate General for Education in Asia and the Pacific of the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO), we developed indicators for monitoring and evaluating the progress of the internationalization of higher education. The results were published as a UNESCO Policy Brief. (2) More than 30 experts gathered to share information and exchange views on the situation of internationalization of higher education at the national and regional levels in Asia. Every year from 2016 to 2019, more than 30 experts gathered to share information and exchange views on this topic. (3) Country-specific case studies were conducted and reports on five countries (India, Korea, China, Thailand, and Malaysia) were prepared.

研究分野：教育社会学

キーワード：高等教育 国際化 知識外交 アジア 指標開発

## 1. 研究開始当初の背景

知識基盤社会と呼ばれる今日の国際社会では、「知」の創出・獲得・発信において優位を得るために多くの国家が学術活動や研究開発への投資を競うように増大させている。それらの国のなかには、科学研究や知的生産が外交政策の重要な柱に位置づけられているケースがしばしば見られる。こうした「知」の国際競争は、国際社会における国家の政治的ならびに経済的な優位性を確立させるうえで重要な要因となっていることは、Joseph S. Nye Jr. による「ソフト・パワー」や「スマート・パワー」に関する研究で指摘されてきた通りである。また、近年、世界各地の大学が国際化を進め、研究者や学生たちの国際的な移動が活発化するなかで、これらの人々が果たす文化的な「外交官」としての役割が重要度を高めている。加えて、留学生のなかには自国へ帰国した後に、政治、経済、文化などの諸分野で指導的な立場に就いている者も少なくない。

これらの現象は「知識外交 ( Knowledge Diplomacy )」とその影響として捉えることができるが、こうした概念は、Michael Ryan ( 1988 ) をはじめとする国際政治学や国際関係論の研究者たちが主導する形で 1990 年代から議論されてきた。そして、先進諸国を中心に、より戦略的な「知識外交」あるいは「科学外交 ( Science Diplomacy )」を推進することが、国家の国際的な競争力の維持・向上のために不可欠であることが広く認識されるようになった。日本でも 1995 年の科学技術基本法の施行によって「科学技術創造立国」の旗印を掲げ、産官学の連携による科学技術振興が目指されてきた。諸外国においても、2010 年にはロンドン王立協会が『科学外交の新領域 - 権力バランスの変容を導く - 』という報告書を出したり、2012 年にカナダの国際教育戦略に関する諮問委員会が報告書『国際教育 - カナダの将来的な繁栄の原動力 - 』をまとめるなど、「知識外交」を強化することが将来的な国力の増強に繋がると考えられている。

ただし、こうした「知」をめぐる国際競争は、学術の公共性や学問の自由といった伝統的な価値観を揺らがす要因ともなっていることに留意する必要がある。なかでも、知的生産活動の拠点である高等教育機関には多大な影響が及んでおり、大学の自治をはじめとする高等教育機関の基盤に対して問い直しを迫るような状況が散見される。とりわけ、近年、大学の国際化が非常に活発化するなか、学術的な価値観よりも政治的あるいは経済的な観点から大学に改革を迫る動きが顕在化している ( 上山隆大 ( 2010 ) の「アカデミック・キャピタリズム」論、WTO のサービス貿易協定、WIPO による知的財産保護に関する制度構築など )。そうした動きを加速化する要因のひとつとして、国際的な大学ランキングの影響力の増大なども挙げることができる。

このような高等教育の国際化における公共性の問題については、Knight、Marginson、Altbach、Kehm、Massen、de Wit といった研究者たちが国際的な議論をリードしてきた。とくに Knight らが国際大学協会 ( IAU ) と共同で実施した世界調査の結果は、グローバル化する高等教育市場の現状を明らかにするとともに、高等教育の国際化が学術の公共性に及ぼす影響や課題を提示している。また、国内では、塚原、山本、羽田、大塚、米澤などによって、高等教育の国際化が社会に及ぼす影響について、諸外国の動向を視野に入れつつ多角的な分析が行われている。しかしながら、「知識外交」に対して高等教育の国際化が及ぼす影響について、とくに実証的に明らかにするような研究は、管見の限り、国内外ともにこれまでほとんど行われてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、アジアにおいて高等教育の国際化が「知識外交」に対してどのような影響を及ぼしているのか、定性的研究と定量的研究を組み合わせることで実証的に明らかにすることを目的として行った。そのために、国レベルにおける高等教育の国際化が、国家による「知識外交」の展開やそのインパクトに対してどのような影響を及ぼしているのかを検証するとともに、アジアの地域・サブ地域レベルでも高等教育の国際化によって「知識外交」がどのように促進（あるいは阻害）されたり、そのインパクトがどのような形で具体的な現象として立ち現れているのかを明らかにした。

本研究では、高等教育の国際化がいかなる影響を「知識外交」に及ぼしているのかについて、とくにアジアにおける国レベルならびに地域レベルの事例を取り上げ、実証的な国際比較研究を行った。なお、本研究でアジアに焦点を絞る理由は、留学生数の急増といった統計データなどにも明確に表れているように、世界各地の高等教育システムのなかでも今日最も積極的に国際化を推進しているのがアジア諸国の大学であると考えられるためである。また、アジア諸国は政治的にも経済的にも国際社会における存在感を高めており、そうした地政学的要因が高等教育を「知識外交」に活用するうえでいかなる影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目指した。

こうしたアジアにおける実証研究を踏まえたうえで、高等教育の国際化が進展するなかで、大学が有する知的・人的・物的な資源が「知識外交」にいかなる役割を果たしているかを解明し、国際高等教育と「知識外交」に関する理論的な枠組みを構築することを目指した。

そして、これらの実証研究と理論研究にもとづき、日本が「知識外交」をさらに促進していくために、どのように大学が国際化していくべきかについての提言をまとめることが、本研究の目的であった。

### 3．研究の方法

本研究では、(1) 関連研究のレビューと理論研究、(2) 高等教育の国際化をモニタリング・評価するための指標開発、(3) 国レベル・地域レベルでの事例研究（関係者への面接調査、文書分析、世論調査の分析など）という3つの研究を行った。これらの研究を実施するにあたっては、「相互パワー」の概念を理論的基盤としたが、この概念を国内レベルでの多様なアクターの相互作用によって形成される「外交力」に関してのみならず、地域・サブ地域レベルにおける国家間の相互作用によって形成される「外交力」にも適用し、分析を行った。

これらの研究を行うために、ユネスコのアジア太平洋教育総局と連携し、毎年、タイのバンコクで専門家ワークショップを開催し、研究に関する協議を行ったり、研究成果の共有を図ったりしてきた。このワークショップは、次の研究成果としても挙げるように、アジア太平洋諸国の専門家たちと強固な研究ネットワークを構築するうえで、非常に貴重な機会となった。

### 4．研究成果

本研究の成果は、以下の3点に集約することができる。

- (1) 高等教育の国際化の進捗をモニタリング・評価するための指標作成を、国連教育科学文化機関(ユネスコ)アジア太平洋教育総局とともに行った。この成果は、ユネスコの Policy Brief として刊行した。
- (2) アジアにおける高等教育の国際化の状況を把握し、どのような進展があり、いかなる課題が

あるかを理解するために、2016年から2019年まで毎年、専門家会合をユネスコと共同で開催した。30名以上の専門家が集まり、国レベルならびに地域レベルでの状況について情報を共有し、意見交換を行った。

- (3) 国別事例研究を行い、5カ国（インド、韓国、中国、タイ、マレーシア）に関する報告書を作成した。

これらの研究をまとめ上げた成果として、香港比較教育学会の学会誌『International Journal of Comparative Education and Development』誌の特集号を刊行した。

本研究の特色であり独創的な点は、アジア諸国が「知識外交」を展開するなかで大学が果たしている役割を、とくに国際化に焦点をあてつつ、実証的に明らかにしたことにある。これまで、高等教育の国際化が「知識外交」に及ぼす影響について検証した研究は国際的にも十分な蓄積があるとは言えず、本研究の成果はアジアのみならず世界各地の「知識外交」と高等教育の関係を考える際の貴重な参照枠組みとなることが期待できる。

もちろん、国際高等教育論の新たな理論的枠組みの構築、という当初掲げた目標に比して、実際の研究成果は事例研究の集積と指標の開発、ならびに、それらを踏まえた概論の提示というレベルにとどまっており、新たな理論枠組みを構築するには至っていない。しかしながら、本研究で得られた知見を踏まえて今後の日本の「知識外交」に関する政策形成に対して、これからも積極的に提言を行っていきたいと考えている。

なお、これらの研究を実施するうえで、ユネスコを中心としてアジア太平洋諸国の専門家たちとの研究ネットワークを構築し、そのネットワークを活用しながら国際共同研究を推進してきたことを、特に記しておきたい。このネットワークは、今後さらに研究を発展させていくうえで、大いに活用していくことを計画している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Sugimura, M.	4. 巻 1
2. 論文標題 "International Cooperation and Globalization in Asia and the Role of Jesuit Universities".	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Identity and Internationalization in Catholic Universities: Exploring Institutional Pathways in Context.	6. 最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 85
2. 論文標題 「高等教育の『国際化』をめぐる新展開と日本の役割 日本の大学は「国際化」により何を指すか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『留学交流』	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 48
2. 論文標題 「政府主導による外国留学支援政策に関する比較分析 - 米国と豪州の事例から - 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『異文化間研究』	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimmi, Yukiko & Ota, Hiroshi	4. 巻 94
2. 論文標題 "Super-Short-Term" Study Abroad in Japan: A Dramatic Increase, "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Higher Education,	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota, Hiroshi	4. 巻 12
2. 論文標題 " Internationalization of Higher Education: Global Trends and Japan ' s Challenges, "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook,	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部由紀, 末松和子 (印刷中)	4. 巻 5
2. 論文標題 「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と研修成果東北大学グローバルラーニングセンターの取り組み」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』	6. 最初と最後の頁 237-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部由紀, 末松和子, 高橋美能, (印刷中),	4. 巻 5
2. 論文標題 「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と研修成果東北大学グローバルラーニングセンターの取り組み」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』	6. 最初と最後の頁 237-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasushi Hirosato	4. 巻 1
2. 論文標題 Regional Cooperation in Southeast Asian Higher Education	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Education	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuto Kitamura	4. 巻 1
2. 論文標題 "Education for Sustainable Development in Asia"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Education	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190264093.013.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 D. Brent Edwards Jr., Taeko Okitsu, Romina Dacosta and Yuto Kitamura	4. 巻 Vol.63, No.3
2. 論文標題 "Regaining legitimacy in the context of global governance? UNESOC, Education for All coordination and the Global Monitoring Report" (co-authored with D. Brent Edwards Jr., Taeko Okitsu and Romina Dacosta)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Review of Education	6. 最初と最後の頁 403-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 D. Brent Edwards Jr., Taeko Okitsu, Romina Dacosta and Yuto Kitamura	4. 巻 Vol.62, No.1
2. 論文標題 "Organizational Legitimacy in the Global Education Policy Field: Learning from UNESCO and the Global Monitoring Report"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Comparative Education Review	6. 最初と最後の頁 31-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 細野衛士・岡野栄之・黒田一雄・今村正治・秋山訓子	4. 巻 21号
2. 論文標題 「私が思う大学のグローバル化とは? - これからの私立大学の進むべき道、職員の役割とは - (2016年度研究集会20周年記念プレシンポジウム)」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学行政管理学会誌	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Watabe Yuki	4. 巻 No.7
2. 論文標題 " Mapping Internationalization of Japanese Universities: Goals, Strategies, and Indicators "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 " International Briefs for Higher Education Leaders "	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子, 秋庭裕子, 太田浩, 横田雅弘	4. 巻 Vol.74
2. 論文標題 「学部レベルの海外留学経験がキャリアにもたらすインパクト - 学位取得目的, 単位取得目的留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果の比較より - 」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『留学研究』	6. 最初と最後の頁 14-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 12月号 (596号)
2. 論文標題 「一橋大学の海外留学・研修制度」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『IDE現代の高等教育』	6. 最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子	4. 巻 46
2. 論文標題 日本人大学院留学生の授業関連活動への参加と能力・意識の高まり：自己評価に基づく質問票調査の結果より	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 125-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 小原優貴	4. 巻 Vol.205
2. 論文標題 「アジアの高等教育事情IIーダイナミックアジアIIー 『知の超大国』を目指すインドの高等教育戦略」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 リクルート・カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 55-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田千晴	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 「中国における教育の対外開放政策：2000年代中盤以降の中 央レベルの政策文書の検証を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『神戸大学留学生教育研究』	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi.	4. 巻 13
2. 論文標題 Measuring the Accessibility of Study in Japan Utilizing International Admissions Procedures of English-taught Degree Programs	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 22
2. 論文標題 高等教育の国際化をめぐる動向と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際教育	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子, 太田浩, 渡部由紀, 秋庭裕子	4. 巻 23
2. 論文標題 グローバル人材育成と留学の中・長期的インパクトに関する研究 留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア文化研究	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部由紀, 太田浩	4. 巻 22
2. 論文標題 日本の大学の国際化評価に資する体系的指標群構築の一考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際教育	6. 最初と最後の頁 55-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子・太田浩・渡部由紀・秋庭裕子	4. 巻 23
2. 論文標題 グローバル人材育成と留学の中・長期的インパクトに関する研究：留学経験者と未経験者に対するオンライン調査結果より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア文化研究	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子・秋庭裕子	4. 巻 22
2. 論文標題 大学・大学院留学経験がもたらす金銭的・非金銭的便益：留学未経験者との比較分析に基づく一考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際教育	6. 最初と最後の頁 83-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子・秋庭裕子	4. 巻 21
2. 論文標題 学部レベルの海外留学経験が能力・意識の自己評価にもたらすインパクト：学位取得目的、単位取得目的 留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果の比較より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 留学生教育	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村友人	4. 巻 42
2. 論文標題 グローバル・シティズンシップをめぐる議論の潮流	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村友人	4. 巻 10月増刊号
2. 論文標題 アジアにおける教育の『国際化』と英語	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota, H., & Horiuchi K.	4. 巻 13
2. 論文標題 Measuring the Accessibility of Study in Japan Utilizing International Admissions Procedures of English-taught Degree Programs	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Hugo Horta & Aki Osawa	4. 巻 Volume 52, Issue 1
2. 論文標題 Mobility, formation and development of the academic profession in science, technology, engineering and mathematics in East and South East Asia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Comparative Education	6. 最初と最後の頁 44-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03050068.2015.1125617	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北村友人	4. 巻 577
2. 論文標題 高等教育の国際化と域内連携	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 "Multilayered Structure of Asian Higher Education Zone: A comparative Study on the cross-border higher education networks".
3. 学会等名 The 11th Biennial Comparative Education Society of Asia (CESA), Comparative Education Society of Asia (CESA),
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 "Program Development and Quality Improvement in the International Higher Education Cooperation".
3. 学会等名 The 3rd Belt & Road International Conference on Higher Education.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 “ Knowledge Diplomacy in Asian Higher Education Zone ”. Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE) 30th Annual Conference.
3. 学会等名 The 3rd Belt & Road International Conference on Higher Education.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sugimura, M.
2. 発表標題 “ Creation and Role of International Higher Education Zone in Asia ”.
3. 学会等名 2019 China Study Abroad Forum, Chinese Service Center for Scholarly Exchange (CSCSE),
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi & Watabe, Yuki,
2. 発表標題 “ Examining Indicators for Evaluation of University Internationalization in Asia-Pacific, ”
3. 学会等名 APAIE 2019 Conference & Exhibition
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 「 どうする日本の留学生受け入れ：ポスト30万人計画に向けた留学生政策 」
3. 学会等名 『 異文化間教育学会特定課題研究・公開研究会：異文化間教育における政策と研究者の役割 』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩, 新見有紀子, 秋庭裕子
2. 発表標題 「長期留学(学位取得目的)と短期留学(単位取得目的等)の効果・学習成果の比較分析」
3. 学会等名 『異文化間教育学会第39回大会』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 “Recruiting Students from Japan: Recent Trends of and Government Initiatives for Study Abroad”,
3. 学会等名 NAFSA 2018 Annual Conference & Expo
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 WATABE Yuki, OTA Hiroshi
2. 発表標題 Examining Indicators for Evaluation of University Internationalization in Asia-Pacific
3. 学会等名 Asia-Pacific Association for International Education Conference,
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 WATABE, Yuki
2. 発表標題 Strategies, Goals, and indicators for Internationalization of Universities: Comparative analysis of Oceania, South & Southeast Asia, East Asia, and Japan
3. 学会等名 Internationalization of Higher Education Platform (IZN of HEP): Internationalization Policies and Practices for Future Development,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡部由紀, 坂本友香
2. 発表標題 学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と学習成果
3. 学会等名 第23回留学生教育学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuto Kitamura, James H. Williams and William Brehm
2. 発表標題 “ Internationalization of Higher Education in Asia-Pacific: Toward a Mapping of Indicators and Their Utilization ”
3. 学会等名 the Second Stakeholders Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific, An International Conference organized by UNESCO and the University of Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 "Global Education Governance for the SDG 4- Prospecting EU-Japan Partnership"
3. 学会等名 EU Japan Forum 2018, in Brussels (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 "Transnational Higher Education and Global Citizenship Education"
3. 学会等名 Fifth Higher Education Research Association Conference, "Graduate School of Education, Peking University,
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 "Transforamtion of International Higher Education Policy in Japan"
3. 学会等名 Graduate School of Education, Peking University, (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 " Trends and Policies of Internationalization in Japanese Higher Education -How "we" have survived- "
3. 学会等名 The 20th Korean Association of International Educators (KAIE) Annual Meeting, (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 「日本の留学生政策をめぐる現状と課題」
3. 学会等名 『異文化間教育学会第39回大会特定課題研究・公開研究会：政策的視点からの異文化間教育研究 課題と展望』東京大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 " Monitoring and Enhancing Internationalization Efforts: Case of Japan "
3. 学会等名 The 29th Annual EAIE Conference and Exhibition, September 13, 2017, Seville Conference and Exhibition Centre, Seville (国際学会)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 山崎その, 伊多波良雄, 太田浩
2. 発表標題 「階層分析法と大学経営」
3. 学会等名 『大学行政管理学会第51回大会』西南学院大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota and Kiyomi Horiuchi
2. 発表標題 “ The Accessibility of English-taught Degree Programs in Japan: Examining International Admissions Procedures ”
3. 学会等名 The 22nd Annual Conference of Japan Association for International Student Education, Toyo University ,
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 Monetary and Non-monetary Benefits Brought About by Study Abroad for a Degree ”
3. 学会等名 AAS (Association for Asian Studies)-in-ASIA 2017 Conference, Korea University, Seoul ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 “ How Accessible are English-Taught Programs?: Exploring International Admissions Procedures ”
3. 学会等名 The 53rd Annual Conference of Japan Comparative Education Society, The University of Tokyo
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 “Challenges and Solutions: U.S.-Japanese Partnerships”
3. 学会等名 NAFSA 2017 Annual Conference & Expo, 2017 Los Angeles Convention Center, Los Angeles (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 “Who is an International Student and Who is a Study Abroad Student?: Case of Japan”
3. 学会等名 NAFSA 2017 Annual Conference & Expo, Los Angeles Convention Center, Los Angeles (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 “Globalization and Internationalization of Higher Education in Japan”
3. 学会等名 Taiwan-Japan Higher Education Forum on Innovative Reform: New Opportunity, New Idea, and New Value, Alumni Association of National Taiwan University, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井 文威, 林 隆之, 新見 有紀子
2. 発表標題 学際的な教育研究活動推進のための戦略：研究大学の戦略計画に着目した日英米の比較研究
3. 学会等名 研究・イノベーション学会第32回年次学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukiko Shimmi
2. 発表標題 Comparison on monetary and nonmonetary benefits brought by studying for an undergraduate or graduate degree in Japan and abroad
3. 学会等名 留学生教育学会第22回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福井 文威, 林 隆之, 新見 有紀子, 上山隆大
2. 発表標題 研究大学の戦略に関する国際比較研究：戦略計画のKey Performance Indicators (KPIs)に着目したテキスト分析の可能性
3. 学会等名 日本高等教育学会第20回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小原優貴
2. 発表標題 「インドにおける構成主義にもとづく学習実践の展開と教員の役割変化」
3. 学会等名 日本比較教育学会第53回大会ラウンドテーブル (SDGs時代における途上国の教員政策－課題と展望)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小原優貴
2. 発表標題 「教育保障の脱国家化と公教育をめぐる論争－インド・アフリカ における低額私立学校の役割」
3. 学会等名 東京大学大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構南アジア研究センター設立記念シンポジウム－南アジアの社会経済発展の基盤：教育・市場・国家
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shingo Hanada
2. 発表標題 A Mixed Methods Study of the Impact of Study Abroad Programs on Intercultural Competence
3. 学会等名 Society for Intercultural Education Training and Research (SIETAR) USA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shingo Hanada
2. 発表標題 Assessing the Impacts of Study Abroad Programs through Mixed Method Research
3. 学会等名 Association of International Educators (NAFSA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 "Prospecting and Modeling Regionalization of Higher Education in East Asia"
3. 学会等名 NAFSA Annual Conference & Expo (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Watabe, Y., Ota, H., D' Angelo, A. M., & Woodruff, G. A.
2. 発表標題 "Examining Internationalization Indicators and Metrics in the United States and Japan,"
3. 学会等名 NAFSA: Association of International Educators, (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ota Hiroshi
2. 発表標題 "Employment of International Students in Japan: Opportunities and Challenges"
3. 学会等名 International Education Association of Australia / International Education Research Network (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda, Miki Sugimura and Mikiko Nishimura
2. 発表標題 "Internationalization and Quality Assurance in Liberal Arts Education: The Perspective of East Asian Institutions"
3. 学会等名 AIEA Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chiharu KURODA
2. 発表標題 Future prospects of transnational higher education: A case study of a Sino-US Joint Venture
3. 学会等名 the Comparative and International Education Society 2017 annual conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 "Expanding International Student Exchange through an English-medium Instruction Program (HGP) with Language Education"
3. 学会等名 Asia-Pacific Association of International Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 The Significance of Higher Education Network as Cultural and People-to-People Connectivity in East Asia
3. 学会等名 U.S.-Japan Research Institutes (USJI) Event 5: Japan-US Partnership towards the formation of Asian Higher Education Area Focusing on ASEAN (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 Changing Policies and New Trends of Internationalization in Japan
3. 学会等名 NAFSA: Association of International Educators (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 日本の大学国際化に関する政策の比較検討 - 日本の現状、課題、今後の展開：諸外国との比較を含めて -
3. 学会等名 日本高等教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 Strategy for Promoting Outbound Student Mobility in Japan: Shifting MEXT ' s Priorities
3. 学会等名 Korean Association of International Educators (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiroshi Ota, Paige Cottingham-Streater, & Shingo Ashizawa
2. 発表標題 Cultivating Diversity in U.S.-Japan Educational Partnerships
3. 学会等名 Asia-Pacific Association for International Education (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 黒田千晴
2. 発表標題 米中の高等教育機関による国際共同学位プログラムに関する一考察
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小原優貴
2. 発表標題 インドの初等教育における有償の『影の教育』の拡大
3. 学会等名 第28回日本南アジア学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小原優貴・福山佑樹・吉田壘
2. 発表標題 アクティブラーニング型スタジオと授業に対する評価 - 受講生と教員の視点から -
3. 学会等名 第22回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福山佑樹・小原優貴
2. 発表標題 アクティブラーニング型授業手法を教員が学ぶための動画教材の製作と評価
3. 学会等名 第22回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計37件

1. 著者名 R. Tsuneyoshi.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 228
3. 書名 Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System	

1. 著者名 Tsuneyoshi, Ryoko, Hiroshi, Sugita, Kusanagi, Kanako & Takahashi, Fumiko eds.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 World Science (forthcoming)	5. 総ページ数 300
3. 書名 The Japanese Educational Model of Holistic Education: TOKKATSU	

1. 著者名 渡部由紀, 末松和子, 高橋美能, (印刷中)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東北大学 高度教養教育・学生支援機構	5. 総ページ数 88
3. 書名 『PDブックレット 海外留学プログラム開発のためのハンドブック』	



1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 「インドにおける学習者中心教育と教員養成をめぐる課題 求められる教員の学びの支援」 興津妙子・川口純『教員政策と国際協力 未来を拓く教育をすべての子どもに』	

1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 952
3. 書名 アリーガル・ムスリム大学」「デリー大学」「インド工科大学」「マドラス大学」「カルカッタ大学」「ムンバイ（ボンベイ）大学」「ネパール・トリブバン大学」児玉善仁ほか編『大学事典』	

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 266
3. 書名 “Internationalization through English-medium Instruction in Japan: Challenging a Contemporary Dejima,” In D. Proctor & L. E. Rumbley (Eds.), The Future Agenda for Internationalization in Higher Education,	

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Beverly Yamamoto and Tomoko Tokunaga (eds.).	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 306
3. 書名 Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions.	

1. 著者名 Yuto Kitamura, Toshiyuki Omomo and Masaaki Katsuno (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 241
3. 書名 Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices.	

1. 著者名 北村友人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 952
3. 書名 「アジアの大学」 『大学事典』	

1. 著者名 北村友人・興津妙子・山崎瑛莉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 21
3. 書名 「教育におけるSDGs - 『量』から『質』への転換と課題 - 」蟹江憲史編著 『持続可能な開発目標とは何か - 2030年へ向けた変革のアジェンダ - 』106-127頁	

1. 著者名 Yuto Kitamura	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 15
3. 書名 “Global Citizenship Education in Asia”, in Tsuneyoshi, Ryoko (ed.). "Globalization and Japanese “Exceptionalism” in Education: Insiders’ Views into a Changing System. pp. 61-76	

1. 著者名 黒田一雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文堂	5. 総ページ数 13
3. 書名 「国際的市民意識形成に対する留学のインパクト」 横田雅弘・太田浩・新見有紀子編『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト - 大規模調査による留学の効果測定』196- 209頁	

1. 著者名 Miki Sugimura	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Penerbit Universiti Sains	5. 総ページ数 12
3. 書名 "Engagement, Sustaining Cultural Connectivity Between Internationalization and Localization: The Significance of the Liberal Arts Programme in Higher Education" in Munir Shuib and Koo Yew Lie eds. The Role of the University with a Focus on University-Community Engagement. pp.122-134.	

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi,	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 21
3. 書名 "How Accessible are English-Taught Programs? Exploring International Admissions Procedures," In A. Bradford & H. Brown (Eds.), English-Medium Instruction in Japanese Higher Education. pp. 108-129	

1. 著者名 太田浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 26
3. 書名 「日本の海外留学促進政策の変遷」横田雅弘・太田浩・新見有紀子編『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト：大規模調査による留学の効果測定』2-28頁.	

1. 著者名 新見有紀子・渡部由紀・秋庭裕子・太田浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 15
3. 書名 「留学による意識と能力の変化～学部留学のインパクト～」横田雅弘・太田浩・新見有紀子編 『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト：大規模調査による留学の効果測定』113-128頁.	

1. 著者名 編者 横田雅弘・太田浩・新見有紀子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 306
3. 書名 『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト』	

1. 著者名 新見有紀子・岡本能里子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 13
3. 書名 「第9章 期間別でみる海外留学のインパクト：期間別でみる海外留学のインパクト」編者 子島進・藤原孝章 『大学における海外体験学習への挑戦』162-175頁	

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Yukiko Shimmi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 17
3. 書名 'Japan's challenge in fostering global human resources: policy debates and practices ' "Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education", Chapter 3, pp. 43-60.	

1. 著者名 Yukiko Shinmi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Sense Publishers	5. 総ページ数 3
3. 書名 'International Visiting Scholars: Brain-Circulation and Internationalization' "Understanding Higher Education Internationalization" pp.255-258.	

1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 16
3. 書名 山内乾史・杉本均編 『現代アジアの教育計画・補巻（第2章インドにおける教育計画を担当）』 23-39頁.	

1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 1
3. 書名 インド文化事典編集委員会 『インド文化事典（認可学校と無認可学校を担当）』 144-145頁。	

1. 著者名 花田真吾	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 19
3. 書名 『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト:大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 花田真吾	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 12
3. 書名 持続可能な開発目標と国際貢献：フィールドから見たSDGs	

1. 著者名 黒田一雄	4. 発行年 2016年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 7
3. 書名 「教育の国際潮流・国際目標達成における『体験の言語化』の可能性」早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編『体験の言語化』	

1. 著者名 北村友人編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 『<岩波講座・教育>変革への展望7 グローバル時代の市民形成』	

1. 著者名 Yuto Kitamura	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 16
3. 書名 “Higher Education in Cambodia: Challenges to Promote Greater Access and Higher Quality,” in Collins, C. S., Lee, M. N. N., Hawkins, J. N. and Neubauer, D. E. (eds.). The Palgrave Handbook of Asia Pacific Higher Education.	

1. 著者名 Kazuo Kuroda	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 16
3. 書名 "Regionalization of Higher Education in Asia" Collins, C., Lee, M.N.N., Hawkins, J.N., Neubauer, D.E. (Eds.) The Palgrave Handbook of Asia Pacific Higher Education	

1. 著者名 佐藤学・秋田喜代美・志水宏吉・小玉重夫・北村友人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 『 < 岩波講座・教育 > 変革への展望1 教育の再定義』	

1. 著者名 Yonezawa, A., & Shimmi, Y.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Sense Publishers.	5. 総ページ数 16
3. 書名 Transformation of University Governance through Internationalization: Challenges for Top Universities and Government Policies in Japan. In N. C. Liu, Y. Cheng, & Q. Wang (Eds.), Matching Visibility and Performance: A Standing Challenge for World-Class Universities	

1. 著者名 北村友人	4. 発行年 2015年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 240
3. 書名 国際教育開発の研究射程 - 「持続可能な社会」の実現へ向けた比較教育学の最前線 -	

1. 著者名 Yuto Kitamura	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 245
3. 書名 The Political Economy of Schooling in Cambodia	

1. 著者名 太田浩	4. 発行年 2015年
2. 出版社 東アジア共同体評議会	5. 総ページ数 33-43
3. 書名 未来志向の関係構築における日中青年交流のあり方	

1. 著者名 Gayardon, A. De., Shimmi, Y., & Ota, H	4. 発行年 2015年
2. 出版社 American Council of Education	5. 総ページ数 73-80
3. 書名 Internationalizing Higher Education Worldwide: National Policies and Programs	

1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2015年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 103-120
3. 書名 世界の社会福祉年鑑	



1. 著者名 小原優貴	4. 発行年 2016年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 177-196
3. 書名 学校化に向かう南アジア	

1. 著者名 渡部由紀, 新田功, 太田浩, 野田文香, 金性希, 武田巧	4. 発行年 2015年
2. 出版社 明治大学	5. 総ページ数 60-73
3. 書名 大学国際化指標体系の構築	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>本研究をまとめ上げた成果として、香港比較教育学会の学会誌『International Journal of Comparative Education and Development』の特集号を刊行した。なお、これらの研究を実施するうえで、ユネスコを中心としてアジア太平洋諸国の専門家たちとの研究ネットワークを構築し、そのネットワークを活用しながら国際共同研究を推進してきたことを、特に記しておきたい。</p> <p>『International Journal of Comparative Education and Development』特集号掲載URL  <a href="https://www.emerald.com/insight/publication/issn/2396-7404/vol/23/iss/2">https://www.emerald.com/insight/publication/issn/2396-7404/vol/23/iss/2</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	花田 真吾  (HANADA SHINGO)  (00635865)	東洋大学・国際学部・准教授    (32663)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒田 千晴 (KURODA CHIHARU)  (30432511)	神戸大学・国際教育総合センター・准教授  (14501)	
研究分担者	廣里 恭史 (HIROSATO YASUSHI)  (40262927)	上智大学・総合グローバル学部・教授  (32621)	
研究分担者	恒吉 僚子 (TSUNEYOSHI RYOKO)  (50236931)	東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・教授  (12601)	
研究分担者	杉村 美紀 (SUGIMURA MIKI)  (60365674)	上智大学・総合人間科学部・教授  (32621)	
研究分担者	渡部 由紀 (WATABE YUKI)  (60600111)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授  (11301)	
研究分担者	米澤 彰純 (YONEZAWA AKIYOSHI)  (70251428)	東北大学・国際戦略室・教授  (11301)	
研究分担者	黒田 一雄 (KURODA KAZUO)  (70294600)	早稲田大学・国際学術院（アジア太平洋研究科）・教授  (32689)	
研究分担者	太田 浩 (OTA HIROSHI)  (70345461)	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・教授  (12613)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小原 優貴  (OHARA YUKI)  (70738723)	東京大学・教養学部・特任准教授    (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関